

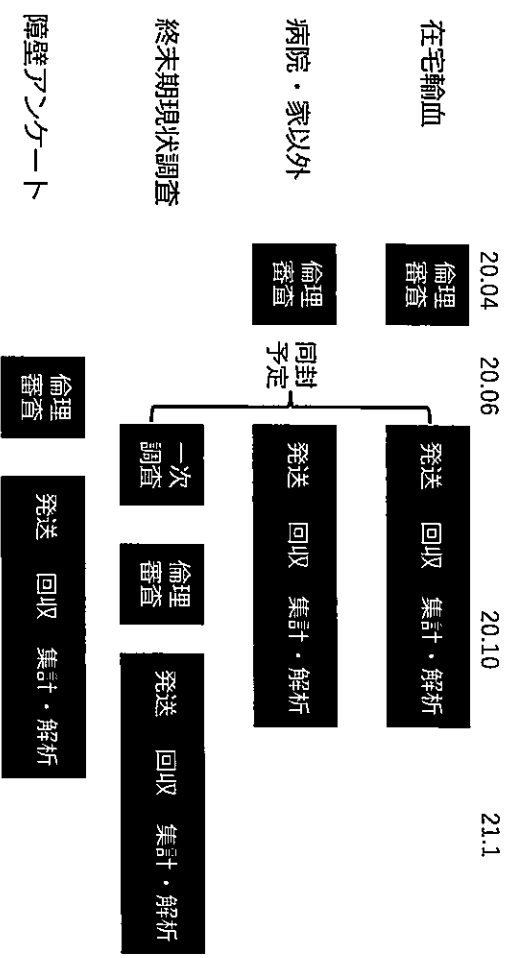
2019年度 がん対策推進総合研究事業
 研究課題名：小児がん患者における在宅医療の質の向上を目指した研究
 (19EA1201)

『小児がん患者に対する在宅医療の実態とあり方に関する研究』

研究代表者
 大隅 朋生

(国立成育医療研究センター)
 予定研究期間：2019-2020年度

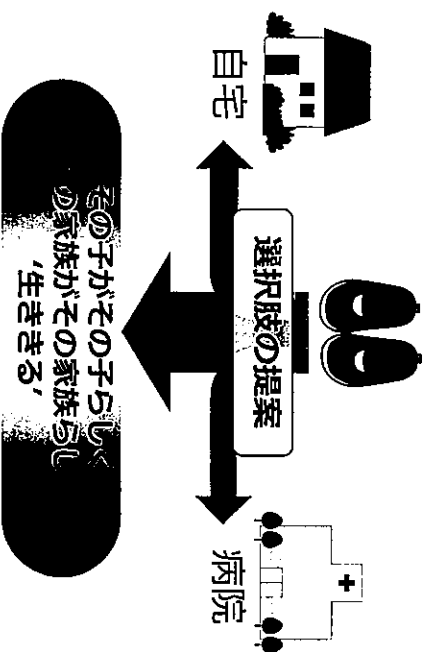
各調査研究のタイムライン



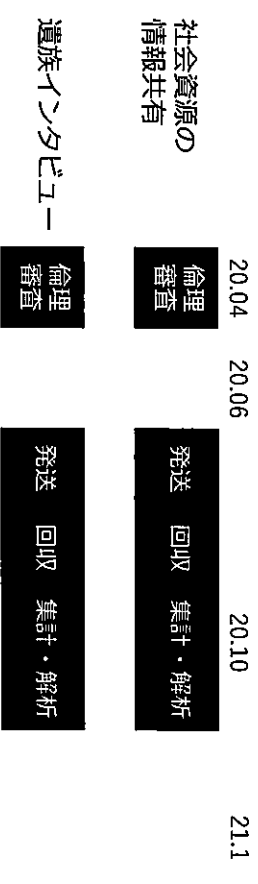
めざす目標

小児がんとともに生きることと家族に療養場所の選択肢が公正に提示される

終末期のごととと家族



他の分担研究のタイムライン



班研究としての成果物について

- ・調査研究が完了すれば「学会発表」や「論文」として成果が公表可能となる
- ・小児がん在宅医療のブックレット？
 - 医療者向け？
 - 患者・家族向け？

研究全体の総括およびまとめ

令和三年度一次公募への 応募について

全体討議

国立成育医療研究センター
大隅朋生

求められる成果（要点）

- ・小児がん患者及びその家族を対象に、在宅医療の希望や在宅医療について知りたい情報等の調査を行い、患者や家族側から見た在宅医療実施のための課題を把握する。
- ・小児がん拠点病院等に勤務する医療従事者等の抱える在宅医療実施に係る悩み等を把握し、医療従事者側から見た在宅医療実施のための課題を把握する。
- ・小児がんの在宅医療における地域に展開可能な好事例を収集する。
- ・上記を踏まえ、把握された課題について、地域に展開可能な解決策を検討する。

2021/1/15

求められる成果（自己採点）

・小児がん患者及びその家族を対象に、在宅医療の希望や在宅医療について知りたい情報等の調査を行い、患者や家族側から見た在宅医療実施のための課題を把握する。

70点

・小児がん拠点病院等に勤務する医療従事者等の抱える在宅医療実施に係る悩み等を把握し、医療従事者側から見た在宅医療実施のための課題を把握する。

80点

・小児がんの在宅医療における地域に展開可能な好事例を収集する。

60点

- ・上記を踏まえ、把握された課題について、地域に展開可能な解決策を検討する。

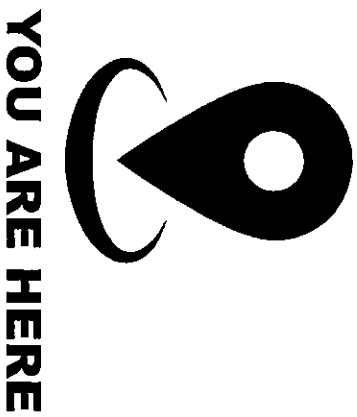
2022年 診療報酬改定にむけて

・日本小児科学会の社会保険委員会との連携

遠藤明史先生 戸谷剛先生
担当理事 窪田満先生

- ・小児のターミナルケアに対する報酬拡大に向けた要望を提出する方向で議論
 - 在宅ターミナルケア加算 (小児加算の追加および増点、対象疾患の拡充)

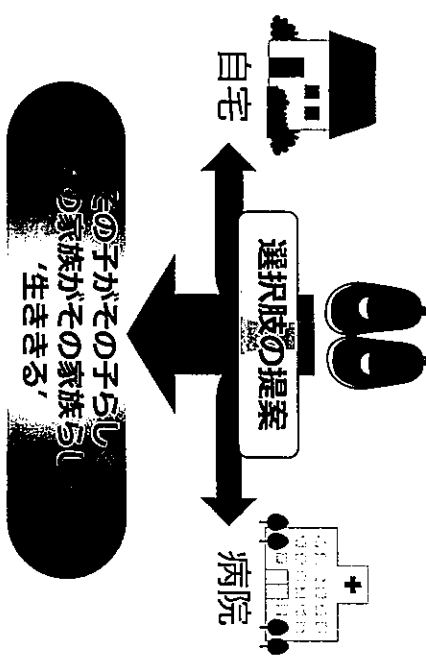
2021/1/15



めざす目標

小児がんとともに生きる子どもと家族に療養場所の選択枝が公正に提示される

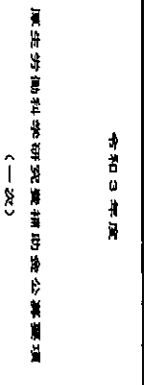
終末期の子どもと家族



2021/1/15



次期大隅班応募に向けて



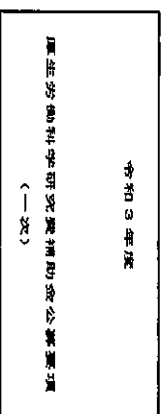
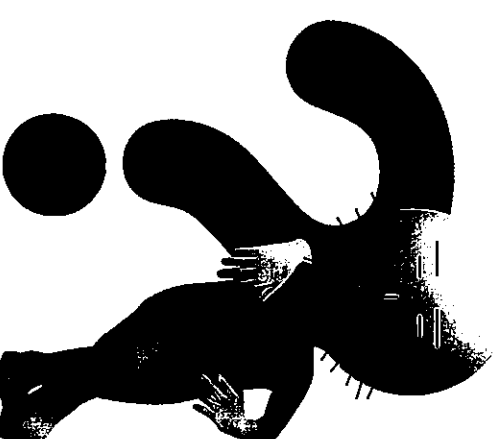
• 現行の路線継続

• 多職種を対象とした調査や啓蒙活動を重点強化

• プラスα

2021/1/15

Any Ideas?



(1) 研究課題名
小児がんの子どもに対する充実した在宅医療の体制整備のための研究
(21EA0301)

(2) 目標
小児がんの子どもに対する在宅医療は、成長発達段階にある小児特有の問題や、高度な医療的ケアの継続の必要性、終末期における子どもとその家族への在宅移行の提案の難しさなどが指摘されている。子どもとその家族の意思を尊重し、限られた時間を過ごす療養環境を選択できるように、子どもとその家族、かかわる多職種の抱える課題や経験・工夫を共有することが求められる。本研究では、こうした現状を踏まえ、地域性も考慮しつつ、子どもとその家族、多職種が活用できる事例集等を作成し、充実した在宅医療を均てん化することを目標とする。

(3) 求められる成果
・小児がん拠点病院等を受診した小児がんの子どもとその家族、在宅医療（自宅、病院以外を含む）にかかわる多職種の参考となる事例集等を作成する。
・小児がんの子どもとその家族、多職種を対象に、在宅医療の希望や在宅医療について知りたい情報等にアクセス出来る方法を提案する。
2021/1/15

(1) 研究課題名
小児がんの子どもに対する充実した在宅医療の体制整備のための研究
(21EA0301)

(2) 目標
小児がんの子どもに対する在宅医療は、成長発達段階にある小児特有の問題や、高度な医療的ケアの継続の必要性、終末期における子どもとその家族への在宅移行の提案の難しさなどが指摘されている。子どもとその家族の意思を尊重し、限られた時間を過ごす療養環境を選択できるように、子どもとその家族、かかわる多職種の抱える課題や経験・工夫を共有することが求められる。本研究では、こうした現状を踏まえ、地域性も考慮しつつ、子どもとその家族、多職種が活用できる事例集等を作成し、充実した在宅医療を均てん化することを目標とする。

(3) 求められる成果
・小児がん拠点病院等を受診した小児がんの子どもとその家族、在宅医療（自宅、病院以外を含む）にかかわる多職種の参考となる事例集等を作成する。
・小児がんの子どもとその家族、多職種を対象に、在宅医療の希望や在宅医療について知りたい情報等にアクセス出来る方法を提案する。
2021/1/15